「省エネのまち」へ本格始動

問い合わせ
環境保全課（内531）

8年後、笑顔で暮らせる環境に
市地域省エネビジョン策定

市ではこのほど、「海老名市地域省エネルギービジョン」を策定しました。このビジョンは、地球環境問題への具体的な取り組みの方向性を示したものです。環境月間を迎えた今回は、同ビジョンと市の環境政策や環境調査結果、市民団体による環境活動などについて紹介します。

「海老名市地域省エネルギービジョン」は、2年前から経済産業省の外郭団体「新エネルギー・産業技術総合開発機構」の補助を受け、策定を進めてきたものです。同機構の補助制度を活用したビジョンの策定は、県内で初めてになります。

このビジョンでは、目標を、市民1人あたりのエネルギー消費を、2010年度までに、1998年度実績と比べて9％削減する」と設定し、目標達成に必要な、市民・事業者・市の役割や行動計画を盛り込んでいます（右下表参照）。

市の1998年度の最終エネルギー消費量は、原油に換算すると約24万6000キロリットルですので、9％削減の目標が達成されると、削減された量は原油で約2万2100キロリットル、ドラム缶では約11万500本分にも相当します。

ビジョンでは市内のエネルギー消費量について、製造・農林水産業などの産業部門、各家庭などの民生部門、交通などの運輸部門の3つに分け、各部門のエネルギー使用設備ごとに主な省エネ対応策を取り上げて、現在のエネルギー使用状況と対応させながら、省エネを進めることとしています。

みなさんの協力が不可欠

ビジョンでは、目標達成のためには市民・事業者・市による、自主的な省エネ行動が不可欠としています。このため市では、まず取り組むべき行動として、公共施設の蛍光灯安定器や空調設備の、インバーター制御化（交流を直流にする際に周波数を操作して無駄のない電力で動かす方式）などを行います。

今年度は、市庁舎・中央公園・地下駐車場・図書館・運動公園総合体育館などで改修を行います。実施にあたっては、ESCO方式（省エネで節減した経費で改修の工事代金を支払う仕組み）や、PFI方式（社会資本整備や公共サービスの提供に際して民間の資金やノウハウを活用する仕組み）の導入なども、検討していきます。

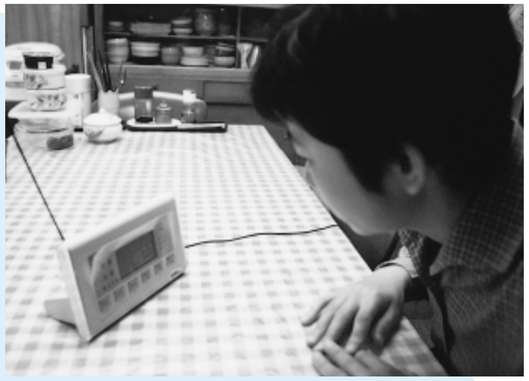
また、市民のみなさんにもライフスタイルを見直していただき、家電製品やガス・石油機器の省エネ使用、環境保全活動への参加、住宅の断熱性向上、省エネ機器の活用などについて、協力をお願いしています。

概要版配布してます

このビジョンの概要版（写真＝A4判・カラー15㌻）は、環境保全課、各コミセンなどで配布しています。また、全文（A4判・113㌻）を市ホームページからダウンロードすることができます。

省エネは市が率先して取り組むことはもちろん、市民のみなさんの協力で家庭から地域へと普及させていく必要があります。各家庭での自然エネルギー利用や効果的な節電のため、市ではいろいろな事業を行っています。また、新しい資源リサイクル事業も始めています。

▶節電効果一目瞭然（りょうぜん）　省エネナビ



各家庭の電気使用量を確認することで節電意識を高めることを目的とした、省エネ機器「省エネナビ（写真）」の購入費補助や貸し出しを開始しました。

この「省エネナビ」は、ブレーカー内の配線に測定用の器具を接続し、測定器をコンセントに差し込むだけで簡単に取り付け可能。月初めから月末の消費電力（*m?/毎時）と電気料金が1分または1日ごとに積算・表示されるほか、節電の目標値も表示されるので、効果が実感しやすくなっています。

補助を希望する方は、購入前に環境保全課へ申請してください。補助額は、購入金額の2分の1以内（1万円を限度）です。

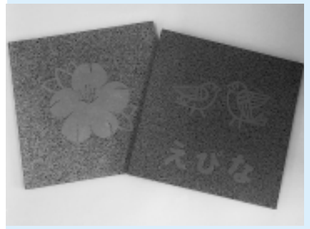
また、貸し出しを希望する方は、6月3日（月）から同課で申し込みを受け付けます（使用開始は7月1日から・先着順）。

展示・貸し出し・補助などあります
〝地球への思いやり〟ご利用を

▲市役所で10日から　えびな環境展

太陽光発電施設・太陽熱利用施設・雨水活用施設・生ごみ処理器など、環境にやさしい生活支援物品を多数展示した、「第3回えびな環境展」を開催します。展示品の中には、購入の際に市の補助が受けられるものもあります。会場で実物を間近に見て、購入するときの参考にしてはいかがですか。

▷日時　6月10日（月）～28日（金）、午前8時30分～午後5時
閉庁日を除く　▽会場　市役所1階エントランスホール



◀回収びん　無駄なく資材に

資源分別回収で集まったびんを建築資材に再生し、「えびんタイル（写真）」と名付けて公共工事での利用を始めます。

「海老名」の「びん」が生まれ変わった「えびんタイル」は、製造過程で有害物質が発生せず、老朽化後には舗装の骨材などに再々利用できるなど、すぐれた特性を持っています。原料は、現在市内で年間約300㌧回収されている無色と茶色以外のびんで、今年度はそのうち約50㌧を再生する計画です。また、市民のみなさんに利用してもらうことも検討しています。

問　資源対策課（内545）。

えびんタイル　使用開始

平成13年度　環境調査結果

市では、快適な生活環境を保つため、市内の大気や水質などの定期的な調査を実施しています。前年度の調査結果は、次のとおりです。

●ダイオキシン類

ダイオキシン類は、ごみ焼却や自動車排出ガスなどから発生し、落下して土壌や水を汚染します。その結果、長い年月の間に食物などから生物の体内に取り込まれ、悪影響を与えるといわれています。

調査結果は表①・②のとおりで、調査地点すべてで環境基準を下回りました。

①大気調査結果
（調査日：平成13年8／23～24・14年2／5～6）
（単位：pg－TEQ／立方㍍）

調査地点	調査結果 8月	2月	平均	環境基準
柏ケ谷コミセン	0.13	0.35	0.24	0.6
大谷コミセン	0.19	0.30	0.25	
上今泉コミセン	0.11	0.32	0.22	
社家コミセン	0.14	0.33	0.24	
下今泉コミセン	0.39	0.45	0.42	
根公民館（本郷）	0.15	0.34	0.25	

②土壌調査結果
（調査日：平成13年11／30・12／14）
（単位：pg－TEQ／㌘）

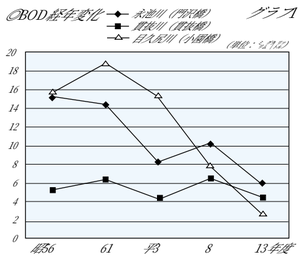
調査地点	調査結果	環境基準
東柏ケ谷4丁目自治会館	11	1,000
柏ケ谷第1児童公園	1.6	
上今泉自然公園	30	
望地道上児童公園	6.6	
国分尼寺児童公園	0.24	
海老名市役所	13	
みなみ幼稚園（社家）	1.2	
杉久保第1児童公園	35	
新田第一児童遊園（門沢橋）	140	
本郷団地内公園	38	

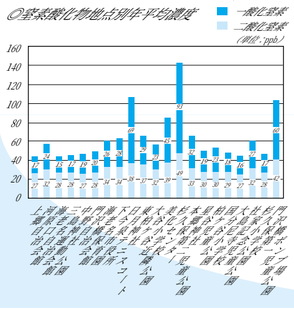
1ピコ㌘（pg）－TEQ／立方㍍（㌘）は、1立方㍍（㌘）当たり1ピコ㌘（1㌘の1兆分の1）のダイオキシン類が含まれることを表します。

●河川・地下水の水質

市内中小河川の水質調査は、微生物が水中の汚染物質を分解するために必要な酸素量（BOD＝生物化学的酸素要求量。大きい値ほど汚染度が高い）などの項目について行っています。主な河川のBOD値の変化（昭和56年～前年度）は、グラフ1のとおりです。水質は改善傾向にあり、特に目久尻川で良好になりました。しかし、永池川などでは水量が少ない影響もあって、まだ良好とはいえない状況です。

また、市内6カ所（東柏ケ谷・下今泉・中新田・大谷・杉久保・本郷）の井戸から採水した地下水を調査した結果、杉久保で人体に有害なトリクロロエチレンの含有量が環境基準を超えました。現在、県などと協力して原因を調査中です。なお、県が汚染のあった井戸周辺の地下水を調査した結果、環境基準を超えた所はありません。

グラフ1


グラフ2


●窒素酸化物

一酸化窒素や二酸化窒素などの窒素酸化物は、酸性雨や地球温暖化などの環境破壊をもたらす大気汚染原因の一つで、自動車の排気ガスなどに多く含まれています。調査地点別の年平均濃度はグラフ2のとおりで、主要道路沿いや渋滞の激しい交差点付近で高くなっています。なお、この測定値は簡易測定のため、環境基準とは比較できません。あくまで目安として考えてください。

参加してみませんか▼▼　環境守る　市民活動

市内には、環境を守るために活動を続けている団体がいくつかあります。その中から、2団体の活動内容や入会方法を紹介します。この機会にみなさんも参加して、環境を守る行動を始めてみませんか。

各種の試みを実施中　えびな環境市民会議

「えびな環境市民会議」は、市民・事業者・市の3者が一体となって、海老名のよりよい環境を守り、創るために活動しています。平成11年8月に発足し、現在約70人・25団体の会員によって、7つの部会が構成されています。市民会議では、次のような活動を行っています。

●カキ殻で水質浄化実験

自然環境部会では、唯一市内に水源を持つ永池川の調査・研究を続け、去年からカキ殻を使った河川水質浄化の実験に着手しました。この実験は川底にカキ殻を敷き詰め、ギザギザ・ゴツゴツした殻の表面にすみついた微生物の力で川の水をきれいにしようというもので、全国的にも珍しく、県内では初めての試みです。

カキ殻は浜名湖（静岡県）から運んでナイロン製のネット袋に詰め、12月半ばから今年1月末にかけて、約800袋を河床に敷設しました。場所は、永池川の上流部である海老名郵便局西側の東部排水路で、現在その効果を調べているところです。

カキ殻を敷き詰める会員（去年12月）

●生ごみ再利用にも挑戦

地球環境部会では市内初の試みとして、去年10月末から1週間、国分寺台自治会第六町内会のみなさんの協力で、家庭から出る生ごみだけを分別収集してたい肥にする、生ごみの減量化・資源化の実験を行いました。

専用容器で出された生ごみを回収し、不純物を取り除いて大型処理機でたい肥に。できあがったたい肥は生ごみのときの約半分の重量で、分析の結果「良質」の肥料と判定され、「混ぜればごみ、分ければ資源」という認識を参加した全員で新たにしました。

市の調査で、可燃ごみの45％を占めている生ごみ。この実験が、環境を守るための理想である循環型社会を築く、市民行動のきっかけになることを期待しています。

現在このたい肥を使い、大谷中学校付近の畑で野菜を栽培する実験を行っています。

●入会は環境保全課で

「えびな環境市民会議」では、このほかにも「えびな環境フォーラム」の開催や、ケナフの紙すきなどを実施しています。同会議に入会を希望する方は、環境保全課で申し込みを。年会費（個人1000円・団体2000円）を添えて申し込みを。

使命は〝地球を守ること〟　こどもエコクラブ

「こどもエコクラブ」は、小・中学生ならだれでも参加できる環境活動グループで、環境省が支援しています。前年度は、全国約4200のクラブで、約7万5000人の小・中学生が会員になっています。

活動期間は4月から翌年3月までの1年間ですが、入会はいつでもできます。会員になると、会報や会員手帳などが送られるほか、1年間活動をやりとげると、地球を守った証「アースレンジャー認定証」が発行されます。また、3年間活動すると銀バッジ、6年間活動すれば金バッジが贈られます。

入会は、小・中学生を対象に数人～30人程度のグループを作り、連絡役としてサポーター（大人）を決めて、環境保全課で申し込みを。登録料や年会費はありません。なお、「こどもエコクラブ」に関する情報は、同クラブのホームページ（アドレス＝http://www.wnn.or.jp/wnn-jec/）でも入手することができます。

実施主体別の役割

省エネ行動の実施主体別の役割は、以下のとおりです。

市民のみなさん
- 冷暖房の温度管理などソフト面での省エネ行動の実践
- 省エネ型機器の積極的な採用などハード面での省エネ行動の実践
- 省エネルギーに優れた住宅の採用
- クリーンエネルギー自動車・低燃費車などの採用
- NPOなど市民主体の団体による省エネ行動の実践

事業者
- 自主管理運用基準に基づく省エネ行動などソフト面での省エネ自主行動の実践
- 省エネ型機器の積極的な採用などハード面の省エネ自主行動の実践
- 中小企業・業務用施設での省エネ対策強化
- クリーンエネルギー自動車・低燃費車などの採用
- ESCO事業の積極的な活用

市
- 地域住民への省エネ情報提供・普及啓発活動
- 公共施設への省エネ型機器や省エネシステムなどの率先導入
- ESCO事業などの積極的活用
- 公用車のクリーンエネルギー自動車・低燃費車への切り替え
- 都市計画や地域環境政策と連携した交通需要マネジメントや交通システムの改善方策の検討

各主体が連携した取り組み
- 分散型電源システムの導入促進
- 草の根型省エネ行動の推進（NPO支援など）
- 学校教育の現場での省エネ普及活動